

(第3種郵便物認可) (毎週水曜日発行)

環境文明21

「環境力」ある経営者を表彰

25年度顕彰式・発表会を開催

環境文明21は2月27日、2025年度経営者が受賞者の授賞理由を紹
「環境力」大賞の顕彰式・発表会(後援:環境省、環境新聞社)を東京都内
でオンライン併用により開いた。同賞は、持続可能な社会の実現に向け、環境経営を実践する企業の経営者を顕彰し、その取り組みを広く社会に共有すること、他の企業の環境経営を促進することが目的。中堅・中小企業を中心に独自の環境経営を実践する経営者に焦点を当てている。18回目となる今回は5人が大賞を、1人が奨励賞を受賞した。

【大賞】

▽関誠氏(ゼンドラ代表取締役、東京都文京区)出版業「クリーン」業界の新聞発行やオンラインドリ事業を行う。子供服の無償譲渡をソーシャルビジネスとして展開している。地域社会の多様な団体と連携した回収・循環システムを構築し、障害者就労支援施設とも協力して福

【奨励賞】

▽田中靖訓氏(レックや、大阪での官民連携組織(OZCAF)設立を推進した地域・業界全体の脱炭素化推進など、社会の持続可能性に資するリーダーシップが極めて高く評価された。



前段が経営者「環境力」大賞の受賞者。(右から)関氏、田中氏、田畑氏、南部氏、三谷氏、高野氏

の要職を務めるなど、幅広く社会活動に従事し、技術と志の両面で持続可能な社会の構築に寄与している点、さらには顧客満足度の高いサービスを提供しつつグローバルな特許戦略を展開している点が高く評価された。

【奨励賞】

▽三谷直輝氏(ニッコー専務取締役、石川県白山市)製造業「老舗陶磁器メーカー」として、廃棄物を肥料「ボナー」にリサイクルする技術を開発し、陶器と農業をつなぐ「サーキュラーエコノミー」を実現した。評価点として、地域農業の支援、過去の課題にも真摯に向き合う情報公開姿勢、生産量や販売量より付加価値により収益力の向上を最優先し自ら率先行動する点が挙げられた。先代からの「環境も私たちのお客さま」という理念を守り、天然資源を大地に頼ることを期待されている。